

令和5年度 「豊かなむらづくり全国表彰事業」東北ブロック受賞事例

東北農政局長賞

人々の「心」を耕し、「結」の精神を育むむらづくり

- 団体名 倉区（区長 渡部 辰雄）
○所在地 福島県 南会津郡 下郷町
○むらづくりの背景・経緯

倉区では過疎化が進み、遊休農地の増加や地域の伝統や文化を守る意識、地域コミュニティの希薄化など、地域力の低下が問題となっていた。

このような状況の中、県営事業の経営体育成基盤整備事業の取組を始め、担い手農家による農地集積・経営規模拡大が実現し、低コスト農業の実現など地域農業の活性化に大きな成果をもたらした。また、事業完了までの17年間で事業だけでなく地区全体の活性化についても話し合いが行われるようになった。

さらに、平成26年には多面的機能支払交付金事業の取組を開始し、これをきっかけに寄合や集会の場でも自然とむらづくりが話題となるようになり、話し合いの中から新たな活性化の提案や実施に繋がるなど、むらぐるみの取組が広く浸透している。



倉区住民

○むらづくりの内容

（１）農業生産面

農作物の獣被害防止のため、令和2年～3年にワイヤーメッシュ柵を約2.7km設置し、柵の春季補修などを継続実施している。これにより獣被害（イノシシ）は大幅に減少し農業生産力向上につながっている。また、農地の法面の草刈り作業軽減のため、抑草シートを計画的に敷設するなど、多面的機能支払交付金を活用した取組を行っている。イノシシによる水田法面等の掘り返し軽減にも効果があるとされている彼岸花の植栽を、区と区内の各団体が連携して取り組んでいる。

（２）生活・環境整備面

江戸末期から明治の初めに造られた「円蔵堰」は、現在も地域の水田を潤すとともに生活用水としても不可欠な施設となっており、区は、取水ゲートを改修して施設の長寿命化に取り組むほか、施設を後世に残すための学習会やウォーキングイベントを開催し、地域のコミュニティ活動の強化と地域内外との交流の場としても活用している。

また、区の婦人会が中心となり国道脇の花壇の整備として、毎年花の植栽を行っており、区内の景観維持に努めている。

地域住民の交流の場として、収穫祭等の各種行事を開催しており、令和3年には「倉村芸術祭」として、フォトコンテストや芸術作品の展示等を行っている。



侵入防止柵



円蔵堰を巡るウォーキング